



# 省エネかつ健康で快適な温熱環境に関する研究



Nara Women's University

工学系・工学領域

佐々 尚美

教授

Sassa Naomi

博士(学術)(奈良女子大学)

■研究キーワード

建築環境工学/人間工学/住環境学/個人差/高齢者/省エネルギー/熱中症/住まい方/疲労軽減

■主な所属学会

日本建築学会/人間-生活環境系学会/日本人間工学会/日本家政学会

■研究者総覧

<https://koto10.nara-wu.ac.jp/search/detail.html?systemId=15c0e8198f1f33ce520e17560c007669&lang=ja&st=research>



研究者総覧

## 研究概要

様々な地球環境問題に対して適切な対応が求められており、その内一つとして、省エネルギーに暮らす事が挙げられますが、その一方で、地球温暖化による外気温の上昇により室内でも熱中症の心配がある為、クーラーの使用による室内温熱環境の調整は不可欠です。しかし、快適な室内温熱環境は、人によって異なり、その異なる要因として、高齢者や若齢者などの年齢差や、性差、冷え性や暑がり寒がりなどの個人の特性の違いが考えられます。そこで、以下の様なテーマについて、人工気候室実験での被験者実験や実際の住まいでの日常生活下での実測調査、アンケート調査等から、人と環境との関係を明らかにすることにより、検討しています。

1.個人差を考慮した健康で快適な温熱環境に関する研究

2.環境共生や省エネルギーな住まい方に関する研究

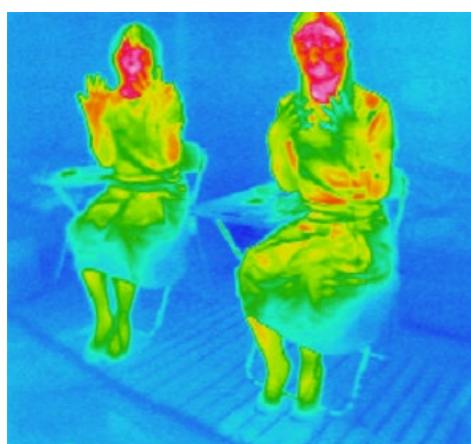
## アピールポイント

### 1.個人差を考慮した健康で快適な温熱環境に関する研究

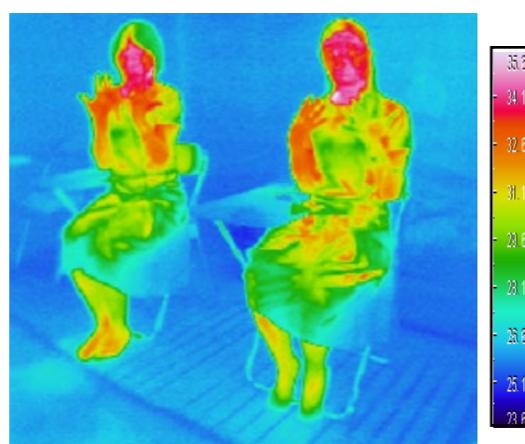
これまでにも、室内の快適な温熱環境について研究され、推奨温度範囲が提案されていますが、その推奨範囲の温度でも全ての人が快適とはならず不快と感じる人がいます。この不快と感じる人々は温熱的に弱者であると考えられ、この様な人々への対応が必要です。例えば、温熱的に弱者と考えられる「冷え症」や「高齢者」などの温熱的特性を実験等から明らかにし、その特性に応じた健康で快適な室内環境や住まい方を、人工気候室にて、温冷感や快適感などの心理量などに加えて、皮膚温などの生理量も測定し、総合的に検討しています。また、近年問題となっている「高齢者の熱中症対策」も検討しており、より多くの人が自身にあった、健康で快適な生活となる事につながると考えられます。

### 2.環境共生や省エネルギーな住まい方に関する研究

現在、省エネルギーにつながる様々な取り組みが提案されていますが、全てを取り組むのは難しく、人によって取り組みやすさが異なっていると考えられます。また、省エネばかりを考えて、例えば夏のクーラー使用を控えてしまうと熱中症発症の危険も生じてしましますし、我慢ばかりでは長続きしないと考えられます。そこで、健康で、快適性も損なわずに、取り組みやすい省エネルギーな住まい方や温熱環境を、人工気候室実験や実測調査、アンケート調査から検討しています。地球温暖化が進んでいる現在、これから更に適切に健康も損なわずに環境と共生した生活を送ることは、緊急かつ重要事項です。



冷え対策をしなかった場合



冷え対策をした場合